

横浜市立 笹野台小学校 令和元年度 学校評価報告書

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①子どもたちが主体となり自ら課題を発見し解決できるような学習展開を進める。②めあてと学習方法を明確にし、振り返りの時間を確保し、1時間の学びと成長を実感できるようにしている。③学力・学習状況調査から課題を発見し、解決していく授業を増やしていく。	①児童が主体となって学習に取り組めるようになることが重点研究の一つの柱になっている。 ②職員間での共通理解はできているが、毎時間、振り返りの時間を確保するのは難しい。 ③学年によって課題は異なる。各学年で基本方針を確認して指導に当たっている。	B
豊かな心	①本校の合言葉を常に意識して、全教育活動において「豊かな心」の育成をしていく。 ②特別活動では「あいさつ運動」、総合ではペア学年活動、音楽的行事の「スクールコンサート」などを通して自他を尊重することの大切さを養う。	①ペア学年活動やスクールコンサートを通して「豊かな心」の育成に努めた。 ②あいさつ運動に関しては、その時だけでなくより習慣化させるためには全職員で共通の理解をもってあいさつのよさを伝えるときに身に付くように継続して声をかけていく必要がある。	B
健やかな体	①体育の授業では、体力テストで見出された課題を克服するために、運動の楽しさを味わえるように学習形態や学習用具等の工夫をする。②年間を通していろいろな運動に親しむ機会をふやすために、ロング昼休みを実施する。③全校で長縄集会を計画し、長縄に挑戦する機会を作る。	①体力テストの結果からは活用できていないが、運動の楽しさを味わえるように教員が工夫している。 ②固定の曜日でロング昼休みを実施できたので、児童も慣れてきて、楽しく体を動かすことができた。 ③長縄集会の取り組みはよかった。実施時期を再考する必要がある。	A
児童・生徒指導	①学校スタンダードを効果的に活用して、児童指導の充実を図る。②全職員での児童理解の時間を設け徹底を図る。③持ち物や体育のスタンダードを作成して、児童が安全に落ち着いて学習できるようにする。④保護者や地域、関連機関との連携を強め、まち全体で子どもたちを育てるような働きかけをする。	①スタンダードは学校の状況に合わせ、職員の共通理解をしていく必要がある。 ②毎月児童理解の時間を設け、共通理解を図った。 ③適宜見直しをしていく必要がある。 ④今年度の取り組みをベースにして、必要に応じて見直しをしていく。	B
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に支援が必要な児童に対して、取り出しを行い、学習や生活上の課題を克服できるようにする。②全職員で対象児童の共通理解を図ったり研修をしたりする。③特別支援に対する教職員の知識を深める研修を進め、特別のニーズに対応する指導や支援を行う。	①週一回の取り出し授業で個々のニーズに応えられるようにした。 ②月に1回の会議で児童理解を深め、全職員で共通理解を図った。 ③児童理解の会議で、必要に応じて特別支援に対する知識を深める研修を行った。	B
人権教育	①朝会や集会、学級活動など年間を通して人権意識を高める取り組みを充実させていく。②職員研修を行う。③人権月間などでは、「Y-Pアセスメント」の結果を踏まえ、横浜プログラムを活用した活動を学年ごとに取り組み、児童の感想等を紹介する。	①人権啓発月間には、各学級で「ありがとうの木」を作り、友達のよさや優しさに気づく取組を行った。 ②教育委員会による人権研修を参考に職員研修を行い、職員の人権意識を高めることができた。 ③横浜プログラムを授業で活用し、活用後の児童の反応について共有する時間をもった。	B
幼保小中交流	①幼稚園や保育園、中学校の教職員との合同研修や参観、共同指導を行っていくことで、教育観を共有し教育技術を高めていく。②幼児・児童が、小学校や中学校の生活や学習を体験することで、不安や戸惑いをなく、安心して自己実現できるような体制づくりをする。③他校の実践などから、より良い実践を学び、積極的に取り入れていく。	①推進地区から外れたため、幼保との合同研修は行っていない。 ②6年生は体験授業を通して中学校の生活を知ることができた。園児は年に4回小学校を訪れる機会があり、小学校の様子を知ることができた。 ③これまでの取り組みを引き続き実践していく。	B
いじめへの対応	①児童生徒の心の動きをとらえるため、カウンセリングスキルに関する研修を行う。 ②「特別の教科道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自らの考えを深める力をはぐくむ学習を用意する。	①校内研修でアセスメントからの具体的な支援の在り方を学び、児童の気持ちへの寄り添い方を研修した。 ②道徳の教科の中で、自尊感情を高める視点での授業を行い、いじめの起きない親和的な学級風土づくりを目指した。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①管理職・主幹教諭・学年主任のリーダーシップの下、今日的課題に関する対応力やチーム力を高め、教職員同士がお互いに指導助言をくり返しながら教師力を高めていく。②教科・領域の指導方法の研修だけでなく安全や生活指導等、幅広い研修を行う。③計画的に校内重点研究・研修を実施し、外部講師を招聘して、授業力向上を図っていく。	①学年研等で日常的に指導助言をくり返している。チーム力を上げて、日々、教師力を高めている。 ②様々な視点からの研修を毎月実施した。 ③毎月、研究授業を行い、新学習指導要領の実施に向けて取り組んでいた。	A
ブロック内評価後の気付き	毎月行っている校内研修では職員のニーズに合わせて外部講師を招聘し、授業改善、児童理解、学級経営など様々な視点から教師力を高め、職員集団としての質の向上を図った。 今年度より始めた「ロング昼休み」の取り組みは、月に一度の取り組みではあるが、休み時間に児童が校庭へ行き、進んで運動に親しみきっかけ作りとして大きな成果を上げた。今後の課題として、一度に多くの児童が出るため、児童の安全面への配慮がより一層必要になる。		
学校関係者評価	・児童に実施したアンケート結果から「安心して学校生活を送っている」「困ったことは解決できている」項目について「そう思わない」と回答している児童が少数ではあるが存在している。0にするために注力していった。 ・昨年度の保護者・児童アンケート結果と比較すると、ほぼ同じか少しづつよくなっている傾向にある。 ・あいさつは先生達へはよくできていると思うが、家庭や地域できているのかは疑問が残る。学校の外でのあいさつについては、家庭でのしつけが大切。大人が子どものお手本となるように心がけていきたい。		
中期取組目標振り返り	・「生きてはたらく知」については、重点研究を通して、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られるようになってきている。来年度は学校教育目標と授業とのつながりをより一層意識して深い学びの姿が見られるようにしていく。 ・「豊かな心」については、ペア学年を柱として相手意識を高めている。保護者・児童ともに活動の意義を理解し、充実した活動となっている。 ・校内研修については、働き方改革との関連も考慮し、教員側のニーズを第一に考えて持続可能な取組にしている。		